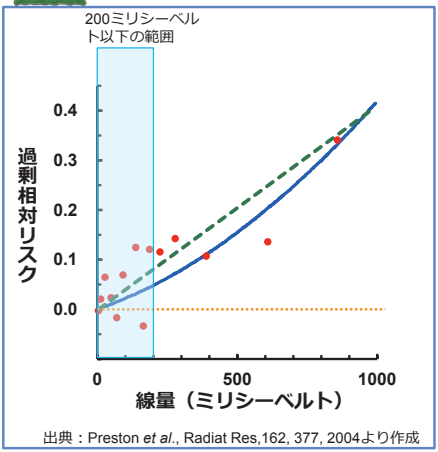
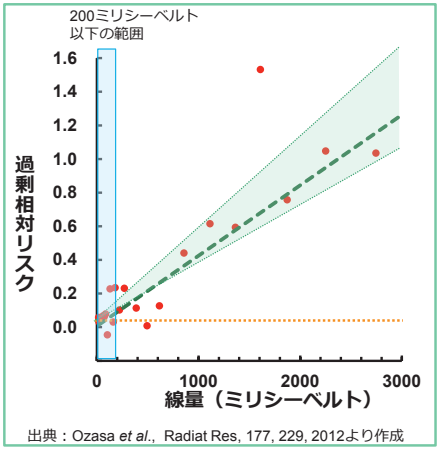
急性外部被ばくの発がん

固形がんによる死亡と線量との関係

固形がんによる死亡（原爆被爆者での結果）



出典：Preston *et al*., Radiat Res,162, 377, 2004より作成



出典：Ozasa *et al*., Radiat Res, 177, 229, 2012より作成

過剰相対リスク：放射線を受けなかった集団に比べ、放射線を受けた集団ではどのくらいがん発生のリスクが増加したかを調べたもの

原爆被爆者の健康影響調査の結果から、被ばくした量が増えると、発がんのリスクが高まることが知られています。最新の原爆被爆者の疫学調査でも、固形がんによる死亡リスクと線量の関係には、がん罹患で 150 ミリシーベルト以上で、またがん死亡で 200 ミリシーベルト以上で直線性が見られるものの、150 ～ 200 ミリシーベルト以下の関係については研究者によっても意見が分かれています。

150 ミリシーベルト以下でも線量とがんリスクは比例関係にあるのか、それとも実質的なしきい値が存在するのか、あるいは別の相関があるのかは、今後の研究によって明らかになることが期待されます（上巻 P140、「 LNT モデルをめぐる論争」）。

本資料への収録日：平成 25 年 3 月 31 日
改訂日：平成 28 年 3 月 31 日